



開会の挨拶

公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団 理事長

島谷 克義

本日は大変お忙しいところを本フォーラムにご出席賜り、誠に有り難うございます。また、日頃、当財団の事業活動に多大なるご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

当財団は、本年10月1日に内閣府より公益財団法人としての認定を受け、新たなスタートを切ることとなりました。平成4年に設立されて以来、昨年までに、合計615件の研究に対して、総額15億7千万円の助成をさせていただくことができました。この活動を通じて、財団設立当初の「わが国におけるヘルスリサーチの振興を図ると共に、国民の健康と福祉の向上に寄与する」という目標が、ある程度達成できているのではないかと自負しております。

本年度は、後ほど第19回研究助成発表・贈呈式において選考委員長の永井良三先生から詳しくご報告をいただきますが、国際共同研究、国内共同研究（年齢制限無し）、国内共同研究（39歳以下）の3つの領域に、合わせて41件の研究に5,947万円の助成をさせていただくことが決定しております。本年度も多くのご応募をいただき、選考委員の先生方には選考に大変なお骨折りをいただきましたが、私どもとしては、財団の事業活動に対する関心の高さの表れとして、喜んでいる次第です。

新しく公益財団としてスタートした当財団には、国民一人一人のクオリティ・オブ・ライフの向上を目指し、全ての人が高最大の医療を享受できるための仕組みを研究する学問であるヘルスリサーチを、さらに振興させるための具体的な方法を積極的に提案し、実績を上げていくことが求められていると考えております。

この円高・デフレと言われている経済環境の下で、財団の運営も大変厳しいものがありますが、皆様のお力添えをいただき、この責務を果たして参りたいと存じますので、一層のご支援とご指導をお願い申し上げます。

本日の会は、新しい公益財団法人として初めての大きな事業活動になります。今年は演題の数も大変多く、選考委員の先生方に座長をお願いして、ポスターセッションを同時並行で進めるなどの工夫をしております。限られた時間で出来るだけ多くのご発表をいただきたいと考えて、このような方法をとらせていただいております。皆様のご意見を聞かせていただき、今後の参考にして参りたいと存じますので、よろしくようお願い申し上げます。

このフォーラムでは協賛をいただいております医療経済研究機構専務理事の岡部陽二先生からご挨拶をいただきます。また、贈呈式では厚生労働省大臣官房厚生科学課長塚原太郎先生、出捐企業のファイザー株式会社代表取締役社長梅田一郎様からもご挨拶をいただくことになっております。会の後には情報交換会も予定しておりますので、奮ってご参加

いただければと存じます。

本日の会が、ご出席いただいている皆様にとって、意義のある、そして価値の高い会となることを願ひまして、簡単ではありますがご挨拶とさせていただきます。